

エビデンスから紐解く 1人1台端末の「真の活用」と「安心安全」

～文部科学省「全国学力調査」の最新クロス分析が示す、学力向上につながる授業設計～

Win Bird 授業支援 for Chrome / Edge

2026年8月 ウィンバード株式会社

文部科学省データが示す「日常化」と「活用低迷」

現場の実態

授業での端末日常利用（ほぼ毎日）



小学校
82.8%

中学校
82.3%

自分で調べる場面での日常利用（週3回以上）



小学校
75.5%

中学校
71.4%

活用（思考・表現・協働）は進みきっていない

考えのまとめ・発表（週3回以上）



小学校
51.9%

中学校
47.9%

生徒同士の意見交換（週3回以上）



小学校
42.6%

中学校
36.2%

（令和8年度学力調査 学校質問より）

用途の偏りと原因



調べ学習が中心に

用途の第1位「調べ学習」（小**82.6%**、中**84.0%**）
小学校では「写真・動画の記録(79.6%)」が続く



協働学習・意見交流は限定的

児童生徒間の意見交流は小学校**50.2%**
地域や他校など校外の人との協働学習は**5.1%以下**

（2026年7月LINEヤフー公表値より）

考察

なぜ意見交換が進まないのか？



教員の「見取り・巡回」の物理的境界

30～40人のデスクトップ画面を、
教員が歩き回って見取るのには時間がかかりすぎる。



10～15分の授業ロス

良い意見や異なる視点を持つ画面を探し回るだけで、
授業の中の貴重な学習時間が浪費されてしまう。

「見取りの負担軽減」と「学び合いの促進」が次の一歩

「画面比較 AI自動選択」が巡回と見取りの壁を壊し、対話へ即導入

Before (従来の授業)

巡回や見取りに多くの時間がかかる



手元画面の巡回限界

30~40人の画面を巡回して確認するだけで10~15分が浪費される。



瞬時の比較・判断

どの児童生徒の画面を並べて比較すれば、授業が盛り上がるか瞬時に判断できない。



対話する時間の欠如

良い意見をピックアップすることに必死になり、肝心の意見交換に時間を割けない。

Solution

Win Bird 授業支援 for Chrome /Edge



見たい画面をAIが自動選択 (AI自動選択)

児童生徒が「自動選択」をタップするだけ。教員が迷うことなく、クラス全体の状況が一瞬で可視化される。

After (授業の変化)

対話の時間が増え、授業が深まる



対話時間が増加

「画面探し」の時間がゼロになり授業の流れを止めない。



授業時間の有効活用

瞬時に異なる意見のグループが目の前に可視化されるため、対話や議論に時間を丸ごと使える。



「主体的・対話的」

「なぜそう考えたか」の多角的な意見交換・学び合いが毎時間の授業で実現する。

「探す」時間を「話し合う」時間へ変換し、授業の価値を高める

学力を伸ばす「整理・分析・スライド作成」スキル

学力との強い相関関係



情報の整理・分析ができる子ほど高学力

「図、表、グラフ、思考ツールなどを使って情報を整理・まとめることができる」と答えた児童ほど、各教科の平均正答率・IRTスコアが高い傾向。



プレゼン・スライド作成ができる子も高学力

「学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」と自己評価した児童生徒ほど、国語・算数/数学・英語3技能のすべての学力スコアが高い傾向。

(令和8年度学力調査 児童生徒質問 クロス分析より)

ただ『調べる』だけでは足りない



単にネット検索で調べる頻度を高める（調べ学習の日常化）だけでなく、その情報を自分で構造化し、整理する経験をさせることが学力向上のキーとなる。

学力を伸ばす「整理・分析」をWin Birdで支える



比較・分類の思考プロセスを自動アシスト

Win Birdの【画面比較】や【AI自動選択】は、子どもたちがまとめた図表や文章、思考ツールの画面を、授業の流れを一切止めずに並べて対比・分類させることができる。



「思考・発表ツール」としての端末活用

単に綺麗にコピー＆ペーストしただけの「作業没頭」を防ぎ、お互いの意見の矛盾や良さを多角的に吟味（整理・分析）する活動に授業の時間を十分に確保する。



学力向上への明確なビジョン

教育委員会が目指す「確かな学力の向上」を、日常的な授業における『AI見取り＋協働的な画面整理』のシステム連携によって具現化する。

調べる・発表するの間にある「整理・分析」の思考をシステムで動かす

見落とされる思考プロセス



「作業没頭」で終わる授業の危険性

「調べる」「記録する」「発表する」は日常化したか、単にインターネットからきれいにスライドへコピー＆ペーストして終わる『作業没頭』になる可能性がある。



提言が求める「整理・分析」の必然性

情報を集める（収集）ことと、発表することの間にある『整理・分析』の段階が、最も見落とされやすい。

・意図的な「思考の時間」の確保

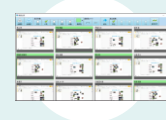
複数の情報源を並べて比較・分類し、吟味する、意図的な『思考の時間（関係の対話）』が必要。

Win Birdが提案する協働学習アプローチ



どの授業、どの教材でも「見取る」 デスクトップモニタリング

児童生徒がどのアプリ、どのデジタルドリル教材を使っているか、活動状況をリアルタイムで一目で見取り可能。



思考を比較・分類する 画面比較

メインのモニタリング画面とは別ウィンドウで、比較したい生徒の画面を並べて表示。色ソートや絞り込みを活用し、意見の違いや良さを可視化する。



手元で意見を共有 画面提示・画面発表

特定の生徒機の画面を他の生徒機や教員機に一斉転送。お手本を全員の端末で参照・共有させながら、深い対話の学びを実現。

多忙な教員の授業ロスをゼロに。アカウント完全同期とURL一斉転送

授業準備の多忙化とスキマ時間活用のニーズ



教員の 73.7% が「準備不足」

「授業準備における指導法の工夫に多くの時間を割いている」と回答。多忙を極める中、毎時間の複雑なログイン操作やURL共有の手間は大きな負担。



1分1秒の授業ロ스가活用を阻む

端末の起動・ログインや名簿登録、年次更新作業に時間がかかると、授業の「冒頭10分活用」は実現不可能になる。

準備と起動の手間を極限まで削減



【名簿登録・年度切替ゼロ】アカウント完全自動連携

学校のGoogle/Microsoftアカウント情報をそのまま利用。Win Bird製品側での名簿登録・年次更新作業は不要。

※Google Classroomは完全自動同期、Microsoft Teamsは簡単な同期処理操作でシステム連携



【授業ロスゼロ】URL一斉転送

教員が今開いているWebサイトのURLを、1クリックで全員の生徒機に強制起動。教員と同じページを1秒で一斉に開き、授業のスタートロスを「ゼロ」に。



Googleアプリの自動有効化

GoogleスプレッドシートやGoogle Formsなどの共同編集ファイルを、事前の共有権限設定なしで一斉転送・即時編集可能に。

プライバシーのトラブルから守り 安全な端末使用に導く

持ち帰りの日常化とネットトラブルの深刻化



家庭持ち帰りの急増

毎日または時々家庭に持ち帰らせる学校は、小学校88.6%、中学校88.1%に達し、9割近くの学校で持ち帰り対応が行われている。



ネットトラブル指導の必要性

活用型情報モラル教材「GIGAワークブック」導入理由の1位は「トラブル回避・低減（41%以上）」、指導内容は「SNS等のコミュニケーショントラブル（小65.9%、中81.8%）」が圧倒的1位。



過度な監視への懸念とプライバシー

「常に教員に監視されている」という生徒側のプライバシー不安や、持ち帰り時の依存、通信量圧迫への懸念。

(令和8年度学力調査およびLINEヤフー調査より)

自律的な安全を支援する見守り設計



【家庭での安全】ブラウザ夜間利用制限

夜間のブラウザ利用ルールを柔軟に設定可能（一斉禁止、許可サイトのみ、警告表示等）。規則正しい生活習慣の意識づけ、パケット制限超過を防止。



プライバシー配慮の「授業参加確認ダイアログ」

授業開始時、生徒機に「参加確認」を表示し、生徒が自ら「参加する」をクリックしたときのみモニタリングを許可する信頼重視の安心設計。



Web利用状況可視化オプション（オプション）

閲覧を35カテゴリに自動判定。校内外の利用を判定し、特定のカテゴリ閲覧履歴から、メンタルやトラブル予兆（いじめ、SNS依存など）の早期検知を支援。

データでルール化を支え、MEXCBTなどのCBTに対応

属人化の限界とルール明確化の要望



ルールの明確化は現場の83.9%が要望

「学校全体で活用推進するためには指導方針やルールが明確である必要がある」と回答。個人の熱意だけに頼る活用の限界。



教員の「異動」に伴う実践の断絶

優れた授業実践が一人の教員の工夫に留まると、その教員が異動した瞬間に学校の活用ノウハウがすべて消えてしまう課題。



第2期で急増するCBTアセスメント

文科省が推進する「MEXCBT」を用いたオンラインテスト。通常のブラウザ運用ではカンニングや誤操作などの試験トラブルが多発する懸念。

(LINEヤフー調査より)

活用プロセスの可視化と厳格な試験運用



【組織的推進】利用状況ダッシュボード

どの学校・どの教員が授業支援コントローラの「いつ・どこで・どの機能」を使っているかをリアルタイム集計。教育委員会が活用状況を俯瞰分析可能。



校内研修・的確なサポートへの二次活用

データに基づいて、活用が滞っている学校への的確なサポートや、自校の傾向を分析して校内研修のテーマ設定、実践事例の共有を仕組み化。



多様な学びへの対応・不登校生徒等への支援

保健室や自宅など、教室外から授業グループに参加している児童生徒の状況も一括で見取り支援が可能。合理的配慮を強力に後押し。



CBTカンニング対策（オプション）

MEXCBTやGoogleフォーム等でのテスト中、不要なWebサイトを強制クローズ。ブラウザを「常に最大化・最前面に固定（ロック）」し、カンニングを抑止。

【授業進行ROI】 毎時間の授業ロスを排除し、対話・協働の時間を2倍へ

授業進行の場面	従来の進行ロスと課題	Win Bird 導入後の効果	削減効果（定量ROI）
授業開始時 (Web教材の一斉起動)	URLを黒板に書いて手入力させたり、ログイン手順を説明。 入力ミスやトラブル等で一斉起動に【5～10分】を浪費。	【一斉URL転送】により教員が今開いているウェブ教材を1クリックで生徒機に強制起動。スタートロスを完全排除。	毎授業「5～10分」の起動・ログインロスを【瞬時（1クリック）】に短縮。
巡視・見取り (対話対象の抽出)	30～40人の席を歩いて回り、誰がどんな意見を書いているか確認。 良い意見の抽出とグルーピングに【10～15分】を浪費。	【画面比較 AI自動選択】によりAIが生徒全員の画面を「意見のポジション」や「視点」で瞬時に分析し、自動で色分け抽出。	意見の抽出・分析にかかる「10～15分」のロスを【瞬時（1クリック）】に短縮。
結果としての 対話・協働時間	準備と見取りで授業の半分（15～25分）を浪費してしまい、本来最も重視すべき子ども同士の意見交換は「5～10分」程度しか行えない。	授業ロスが完全に消失したため、1時間の授業の中で対話や深め合いといった協働的な学びに使える時間を「20～25分」に倍増。	子ども同士の対話・協働の時間が【2倍以上】に増加。

※ご利用のネットワーク環境や端末スペック、接続台数により、処理・表示時間が変動する場合があります。

【授業準備・管理ROI】 アカウント同期による管理コストと校務負担の排除



授業進行の場面	従来の進行ロスと課題	Win Bird 導入後の効果	削減効果（定量ROI）
共同ファイルの事前設定 (Classroom連携等)	Googleスプレッドシートやフォームを使って共同編集をさせる際、事前にドライブ上で『共有・編集権限』の設定を授業ごとに【10分】行っていた。	【アカウント完全同期自動有効化】により、事前の編集共有権限の設定をシステム側が全自動処理。URL一斉転送と同時に即編集可能。	本製品側での授業ごとのファイル共有にかかるコストを【完全ゼロ（0分）】化。
名簿登録・年次更新 (学校統廃合・クラス替え)	毎年のクラス替えに伴う年度更新や、急な学校の統廃合に合わせ、授業支援システム側での名簿登録・クラス修正に【毎年数時間～数日】を浪費。	Google Classroom/Microsoft Teamsの登録情報とシステムレベルで自動同期。教員側、運用管理側での登録・切替メンテナンス作業は一切不要。	本製品における名簿管理コストを【完全ゼロ（0分）】化。

- 文部科学省 公表資料：「全国学力・学習状況調査 報告書 質問調査」（令和8年度・7年度・6年度・5年度・4年度）
- 文部科学省 ガイドライン：「GIGAスクール構想の実現 学習者用コンピュータ最低スペック基準」（令和6年4月17日公表）
- LINEヤフー株式会社 調査報告書：「GIGAスクール端末および情報モラル教材の活用状況と効果、教員意識に関する調査報告書」（2026年7月公表）